

キコニアレター

2023.8.31発行 No.33



コウノトリの郷公園に やつてきました

兵庫県立コウノトリの郷公園

園長 久下 隆史
KUGE Takashi



人生は時と出会いと運によって決められていくと思います。その最初の出会いが、1990年4月に兵庫県教育委員会社会教育・文化財課文化財係に異動したことでした。それまでの18年間は、県立高校の社会科教師として主に日本史を担当していました。突然の話で、しかも教育から行政に異動するという驚天動地の出来事でした。しかも、異動当初与えられた仕事は、新規事業の「歴史の道調査事業」と「特別天然記念物コウノトリの保護増殖事業」でした。大学で学んだ民俗学を教員時代も研究していたこともあって、民俗関係にはいくらかの知識はありましたが、さすがに天然記念物は今までに見聞きしたことのない分野でした。

そのコウノトリは野生で絶滅し、豊岡で捕獲し保護増殖に努めていたコウノトリも亡くなりました。しかし、ロシアのハバロフスク地方から寄贈された鳥から、1989年に2羽のヒナが生育し、以後順調に増えて行きました。新しく誕生した鳥たちの家の建設と共に、新しい仕事として、新たに誕生した鳥を野生に戻せるかの課題解決が加わりました。野生下で絶滅した動物をもとの野生に戻す試みは世界でも行われていましたが、必ずしも順調に進んでいたわけではありません。そこで、1992年にコウノトリの野生化の取り組みを検討するコウノトリ将来構想検討委員会を立ち上げました。研究者、行政など12人のコウノトリ野生化に関係する委員で考えていただきました。その結果、野生化の試みを進めることが、そのためには新たな場所と施設が必要なことなどの提言をいただきました。おかげさまで、1999年に豊岡市にコウノトリの郷公園が誕生し、保護増殖事業と共に野生化への取り組みを支える研究組織も兵庫県立大学の付属研究所として誕生しました。そして2014年には県立大学大学院地域資源マネジメント研究科が設置され、本格的な研究活動が進められています。

現在、コウノトリの生息数は300個体を超える、今後の野生復帰の試みと施設の在り方を検討する時期にきていました。この時期に、当初関わったコウノトリの郷公園に赴任することになりました。これから、研究者や飼育員、獣医師をはじめとする職員とともに、地元はもちろん多くの皆様のご支援、ご協力を受けながらコウノトリのためにもつともよい環境の創造と野生復帰の取り組みを進めて行きたいと思っています。

コウノトリの個体数 (2023.7.31 時点)

飼育

施設・拠点名	オス	メス	不明	計
兵庫県立コウノトリの郷公園	27	27	1	55
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	17	18	0	35
養父市伊佐拠点	1	1	2	4
計	45	46	3	94

野外

カテゴリー	オス	メス	不明	計
兵庫県放鳥	17	13	0	30
兵庫県野外巣立ち	74	95	11	180
野生個体	0	1	0	1
他府県放鳥	11	6	0	17
他府県野外巣立ち等	63	63	17	143
計	165	178	28	371

コウノトリ野生復帰プロジェクト - レジデント型研究者の苦労と喜び -



元兵庫県立大学大学院
地域資源マネジメント研究科
教授

O SAKO Yoshito
大迫 義人

日本個体群が絶滅したコウノトリを日本の空に復活させる取り組みである「コウノトリ野生復帰プロジェクト」は、2005年から兵庫県但馬地域で、その実践、すなわちリリース（放鳥）が始まった。

我々、兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科の教員は、このプロジェクトが実施される、研究のフィールドとなる地域に定住し、そこで生活し研究を行う研究者（レジデント型研究者と呼ぶ）である。

このプロジェクトは、人間の生活空間のひとつである田園地帯で展開されているため、「コウノトリと共に生する地域づくり」を目標としている。目標を達成するためには、「官民学の連携」が重要である。



2005年9月24日に兵庫県でリリースが始まった
コウノトリの野生復帰プロジェクト

コウノトリは、3つの法律で守られており、官である文化庁、環境省の許可の取得や生物多様性戦略などの施策との合致が求められる。兵庫県と豊岡市は、コウノトリの野生復帰を主導し連携しているので、プロジェクトの体制づくりや予算の確保などを行っている。また、民である県民、市民には、プロジェクトの取り組みに関する理解と協力はもちろんであるが、特に農家のには「コウノトリ育む農法」などを実践してもらう必要がある。そして、学である兵庫県立大学は、野生復帰の科学的データを官や民に提供し共有する必要がある。

ある地域に生活者として定住することは、その地域の慣習やルールを遵守することである。我々の住んでいる兵庫県但馬地域では、家庭一隣保一区一地区の社会組織があり、地域を維持するために、それぞれ多くの役割や行事がある。定住者はそれらを担当したり参加したりするが、そのためには多くの時間と苦労を伴っている。

一方、コウノトリ野生復帰の現場で暮らしている我々にとって、プロジェクトの前進・拡大を地域住民とリアルタイムで目にすることは喜びである。また、コウノトリを通して、新しい人と人とのつながりが、地域内だけでなく日本全国、外国まで広がることも大きな喜びとなっている。

兵庫県立コウノトリの郷公園の開園以来23年間にわたってコウノトリの野生復帰事業に携わってきた兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科 大迫義人教授が、令和4年度末をもって定年退職されました。これに先立ち、3月16日に「私の野生動物の保全に関する研究」と題した最終講義が行われました。長年の研究を基に明らかとなってきたコウノトリの生態をはじめ、人と自然の共生できる環境づくりの必要性などについて説かれ、学生ほか一般参加者を含め多数の聴講者が熱心に耳を傾けました。

兵庫県立大学大学院 大迫教授 最終講義





祥雲寺巣塔で 2年ぶりのコウノトリ巣立ち

今年も各地で野外コウノトリの繁殖のニュースが報じられ、その範囲はますます広がりを見せています。兵庫県立コウノトリの郷公園前の祥雲寺巣塔でも、新規ペア（野外個体J0083♂と大陸由来の野生個体「エヒメ♀」）が繁殖しました。昨年は、「エヒメ」とその子（J0021♂）の親子婚であったためペアを解消させました。

今年のパートナーは、「エヒメ」にとって孫にあたりますが、近親婚対策の対象外として当該ペアの繁殖を継続したところ、3月6日に産卵し4月9日にふ化（日付はいずれも推定）、6月12日に無事3羽が巣立ちました。この巣塔の様子は定点カメラによるライブ配信を行い、多くの皆様にコウノトリの子育ての様子を観察していただきました。



「エヒメ♀」の元に飛来したJ0083♂ (2/17)



巣塔で寄り添う祥雲寺新規ペア (2/19)



ペアが交代で抱卵 (3/23)



雛の世話をするJ0083♂ (4/12)



巣で雛を守る「エヒメ♀」 (5/11)



1羽目の巣立ちの瞬間 (6/12)

野外コウノトリの繁殖状況

2023.8.1時点

		巣内のヒナ数	巣立ち幼鳥数
兵庫県	豊岡市内	3	33
	その他	-	8
京都府		-	15
鳥取県		2	4
島根県		-	3
広島県		-	3
香川県		-	1
徳島県		-	3
佐賀県		-	2
石川県		-	5
福井県		-	13
栃木県		-	2
茨城県		2	1
合 計		7	93

パンデミックは依然として気がかりだが、大学は活動制限が解除され、コロナ以前に戻りつつある。汗をかきかき、足で稼いでデータを集める。燃え盛る真夏の日差しは体にこたえるけれど、これこそフィールドワークの醍醐味だ。こちらはそれがいささかキツくなってしまった老兵だが、若い学生諸君の奮闘を祈りたい。事故なく調査を全うされんことを。

(望鶴生)

No.29

RRM
column

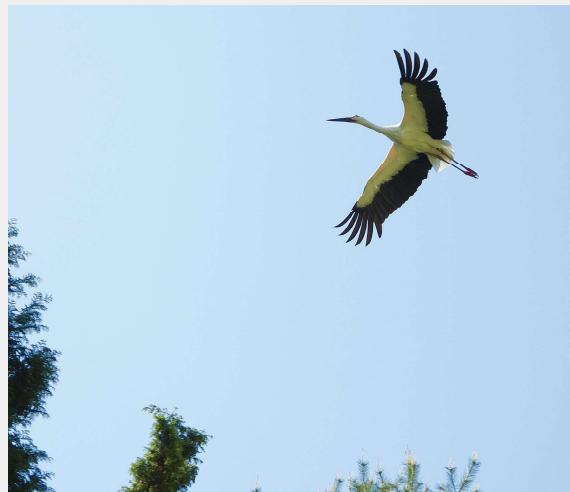
兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科コラム

INFORMATION

ふるさとひょうご寄附金で コウノトリ野生復帰プロジェクトを応援してください。

当園では全国の皆さまのご協力を得ながらコウノトリの保護増殖と野生復帰に取り組んできました。しかし、まだ道半ばの状態にあり、特に昨今では飛来地や繁殖地が全国的に拡大したこと、当園の技術的支援の必要性が高まっています。また、野外コウノトリの増加に伴い、救護個体の増加や近親婚の発生など新たな課題への対応や、遺伝的な多様性確保のための国内外の施設とのさらなる連携が重要となってきています。

これらの取り組みを進めていくためにも本プロジェクトへのご賛同・ご支援をお願いいたします。本プロジェクトの詳しい内容は、郷公園HPに掲載しています。



申込方法

1 ふるさと納税サイト
「ふるさとチョイス」
による申込み



または

2 寄附申出書
による申込み



特典例

- 共通 ▶ 広報誌「キコニアレター」の送付、寄附者向け特別イベントのご案内
- 寄附額1万円以上 ▶ 郷公園オリジナルグッズの進呈（兵庫県外にお住まいの方が対象）
- 寄附額10万円以上 ▶ 飼育コウノトリの命名権（2年間）など

ご報告と 令和4年度は、26件、合計845,500円のご寄附をいただきました。（令和5年3月31日時点）

お礼 引き続き兵庫県立コウノトリの郷公園では、プロジェクトに賛同いただき、ご支援いただける方を募っています。

秋のイベント案内

第3回 飼育コウノトリへの給餌体験

令和5年9月9日（土）13:00～15:30

非公開エリアで飼育するコウノトリの餌の配合や給餌を体験し、コウノトリについて学びます。

非公開エリアをご案内！秋の特別ガイドウォーク

令和5年9月24日（日）午前10:00～11:30

午後13:30～15:00

園内の動植物や非公開エリアをご案内し、コウノトリの保護増殖と野生復帰を学びます。

郷公園デー～非公開エリア特別公開～

令和5年10月21日（土）22日（日）9:00～15:00

●郷公園スタンプラリー

非公開エリアを含む郷公園全体を巡ってスタンプを集めます。

●コウノトリの診療所

コウノトリの治療室と手術室を公開します。

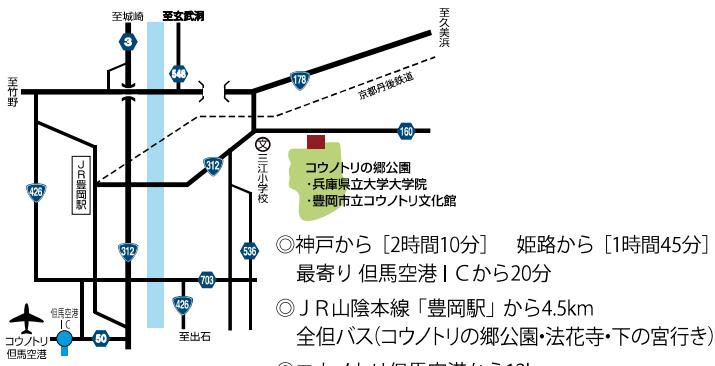
●コウノトリ野生復帰の舞台裏

飼育活動を非公開エリアで飼育員が解説をします。



※イベントの日程や内容は予定であり変更することがあります。詳しくは、事前に郷公園ホームページやSNS等でお知らせしますので予めご了承ください。

ACCESS!



編集後記

郷公園から「エヒメ」が姿を消して2ヶ月が過ぎました。「エヒメ」は、大陸由来の野生個体と推定され、愛媛県と兵庫県の間を行き来していたことから「エヒメ」の愛称で親しまれるようになりました。そしてここ豊岡に定着し、これまで70羽を超える子孫に命を繋いだコウノトリ野生復帰のシンボルとも言える存在です。

フェイスブック等により郷公園の日常をお伝えする中でも、「エヒメ」は常にその中心にあり、今でもコウノトリを見かけると、つい足環の無いことを期待しつつその姿を探していることに気づかれます。しかし、わが子の巣立ち間近という時期に忽然と姿を消したことは、これも彼女自身の意思であり、私たちには推し量ることの出来ない野生動物としての必然があったのかもしれません。

日本のコウノトリの系譜に貴重な遺伝子をもたらし、多くの皆様に愛されてきた「エヒメ」。優雅に大空を舞い、凛として巣塔に立つ姿は、今もなおその記憶が色褪ることはありません。（自然解説員 白岩雅之）